

編集委員会便り

会員委員懇話会と編集委員会

近頃、新聞等で原油価格の弱含み、あるいは低迷を報じ、年平均で17~18ドル前後の公算が強いと予測している。原油価格を左右する要因は複雑であって、まず需給関係、特に OPEC の生産量と価格政策等が挙げられるが、ペルシャ湾岸状況と航行の安全性もまた大きな要素となる。石油業は運送業とも言われるくらい、輸送の占めるウエイトは大きい。これはエネルギー資源全般についていえることであろう。かつて、我が国で石炭のやま元発電なる発想が取り上げられたが、これは一口にいえば、石炭を需要地まで運ぶか、或は産地で電力に変換して送電線に乗せるかの経済論争である。更に、資源の輸送と貯蔵は、その有効利用の立場から表裏一体であると言わねばならない。

かような立場から、今月号は「エネルギー輸送と貯蔵」なる特集を計画した。これによって、我々が何気なく使用しているエネルギーが実はグローバルなシステムの中で、生産・輸送・貯蔵を経て消費段階に至っており、各段階でさまざまな調整が行われていることをご納得頂けることと思っている。

毎回、特集を組むに当たっては、特集題目の決定につづいて、その内容の構成や執筆依頼に関し、編集委員並びに事務局各位の積極的で有意義な意見、工夫が豊富に出されるので、特集の提案者は心強い限りである。この編集委員会の協力の確かさをしみじみと感じる瞬間である。

2月定例の編集委員会は2月15日、大阪大学工業会館で開催され、出席者16名で毎度のこと乍ら、出席率は良好であった。まず、上野事務局長より諸報告が行われ、その後議事に入り、会誌3月号の執筆状況、会誌5月号の執筆承諾状況、更に7月号の本誌通巻50号記念特集についての綿密な詰めが行われた。また、シリーズ特集は毎回、若松京大教授（本委員会副委員長）の担当であり、いつも着想のよさに感心している。編集委員会のこの協力体制が今後とも続いて、本誌が益々発展することを期待し、併せて、読者諸賢のご健康を祈る次第です。

編集委員 宗 明

京都大学工学部電気工学科教授

